

TOTTORI UNIVERSITY HOSPITAL CENTER FOR CLINICAL RESIDENCY PROGRAM

# 鳥取大学医学部附属病院 研修センターだより

鳥取大学卒後臨床研修センター

第33号 2018年11月15日発行

## 鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修における研修理念

将来、医療現場のリーダーとしてふさわしい安全・安心で、最高・最適な医療を提供できる優れた医療人となるために、

1. 医師としての高い倫理性・道徳性を修得する。
2. 常に患者および家族の立場に立ち、医療を実践する。
3. 日常診療で頻繁に遭遇する病態・疾患に適切に対応できる基本的臨床能力（知識、技能、態度）を修得する。

## ※第33号の紙面※

### ●ニュース・行事・話題

- 1ページ. 2020年度医師臨床研修制度の見直しについて  
卒後臨床研修センター副センター長 山田七子  
2ページ. 専門研修プログラム領域別説明会を開催いたしました  
卒後臨床研修センター専門教育研修部門 井岸 正  
2ページ. 平成30年度納涼会  
卒後臨床研修センター 大塚裕真  
3ページ. 平成30年度鳥取大学指導医講習会

### ●シリーズ

- 4ページ. 研修医日誌  
鳥取大学医学部附属病院 研修医1年目 李 英伊  
4ページ. 研修医今昔物語～私の研修医時代、そして今～  
女性診療科 佐藤慎也  
5～6ページ. 医局探訪～第三内科～  
第三内科診療科群 舟木佳弘  
6ページ. 平成30年度後期行事予定  
6ページ. 編集後記

## ニュース・行事・話題

### 2020年度医師臨床研修制度の見直しについて

卒後臨床研修センター副センター長 山田 七子

平成16年度に始まった医師臨床研修制度は、概ね5年毎に見直しが行われてきました。そして、次の大きな見直しは平成32年度（2020年度）に予定されています。主な変更点をピックアップしますと

- 1) 医学教育モデル・コア・カリキュラムと整合性のある到達目標・方略・評価の作成
- 2) 到達目標は「医師としての基本的価値観（プロ

フェッショナリズム）」と「資質・能力」「基本的診療業務」に整理

3) 方略では、必修科目が「内科」「救急」「地域医療」に加え、「外科」「小児科」「産婦人科」「精神科」の7科目になり、一般外来研修も必修化さらに、「経験すべき症候」は29項目、「経験すべき疾患・病態」は26項目へ

4) 到達目標の達成度評価は各分野・診療科のローテーション終了時に医師及び医師以外の医療職が評価などがあげられます。

鳥取大学医学部附属病院の臨床研修プログラムも、2020年度の変更にむけて見直し作業をすすめています。より充実した研修が実現できるよう、関係者皆様のご協力をよろしくお願いします。



## 専門研修プログラム領域別説明会を開催いたしました

鳥取大学医学部附属病院卒後臨床研修センター専門教育研修部門 井岸 正

いつにない猛暑のなか、鳥取大学医学部附属病院専門研修プログラム領域別説明会を7月16日(海の日)に記念講堂にて開催いたしました。19基本領域中で、鳥取大学では基幹施設として17領域でプログラムを提供していますが、そのうち16領域から多くの先生方にご出席いただき、参加者への丁寧な説明をしていただきました。

研修医等の参加者は32名で、その内訳は、鳥取大学附属病院研修医8名、関連病院研修医22名、医学部生2名がありました。平成31年度の研修開始の対象となる研修医2年目の参加は、鳥取大学附属病院で5名、関連病院研修医で13名ありました。鳥取大学附属病院研修医2年目の参加が少ないと感じましたが、本院の研修医は日々の研修で各診療科や領域の指導医等との交流があり、改めて情報を得る必要性を感じる人が多くないのかもしれません。あるいは、すでに専攻する専門領域を決めていたのかもしれません。一方、関連施設においては2年目の研修医の参加は比較的多く、専門領域を選択するに当たり、情報を求めておられたと考えます。今回の説明会が、専門研修プログラムを選択するに当たり有用な情報を得る機会となり、プログラム責任者や指導医と直接面談することで、今後の交流の契機になっていれば幸いです。

今回の説明会で「平成31年度鳥取大学医学部附属病院専門研修プログラム」冊子を参加者に配布させていただきました。説明会での情報に加えて、これが専門領域やプログラム選択の際に役立つことを願っております。

最後になりましたが、連休中にも関わらずこの説明会に出席いただいた研修医や先生方に、この場をお借りして感謝申し上げます。



## 平成30年納涼会

卒後臨床研修センター 大塚裕真

『親睦を深め、より良い研修環境を』そんな目的を掲げ今年も開催いたしました。この納涼会は卒後臨床研修センターの教員・職員の方々、および当院研修医によって1年に1回行われます。今年は計40名程度と大人数での開催となりました。いつもの真面目な研修とはまた違い、和気あいあいとした雰囲気の中でいつも研修について思っていることなどを話し合う、とても有意義な会となりました。各々が日頃の想いや考えを共有できたのではないかと思います。参加してくださった皆様ありがとうございました。体調を崩しやすい時期ですが、無理せず頑張っていきましょう。





## 平成30年度鳥取大学指導医講習会

10月13日(土)と14日(日)の2日間にわたり、平成30年度指導医講習会を開催しました。今年は学内外から36名の先生が参加されました。より良い指導を目指し、グループ作業やロールプレイなどに取り組んでいただきました。参加者を代表して同一のグループの先生方の感想をご紹介します。

(鳥取大学医学部附属病院 神経内科 渡辺保裕)

当時の第一外科に在籍されていた先生と私の2名で、平成16年に「第1回若手指導医のための“指導スキルアップ”」セミナーを受講しました。名古屋で土曜日の午後から日曜日の終日開催され、鳥取大学からは初めての受講者ですので文字どおり第一号だと思っていました。最近になりこの時のセミナーが卒後臨床研修指導医講習会の基準を満たしていないことを知り、今年度再度受講することになりました。

当然私が最年長で居心地悪いかなと思っていたが、廣岡保明医学部長が受講者として参加されており、驚くと同時に先生の学びの姿勢に感銘を受けながら講習会がスタートしました。名古屋でのセミナーの印象はもう想い出せませんが、今回は自学での受講でしたので気分的にはかなり楽だったように思います。グループ作業では、元気な先生達の間で活発な議論が展開されました。研修医の指導から離れる期間が長く、ロールプレイでは指導医時代や、さらには研修医だった頃の感覚を懐かしく思い出しました。

せっかく2日間を使って受講した講習会ですので、今後に役立てたいと思います。最後になりましたが、御多忙のなか本講習会を開催頂いたディレクター、タスクフォースの先生方、その他関係者の皆さんに感謝を申し上げます。

(山陰労災病院 整形外科 上村篤史)

卒後臨床研修について、系統的に学ぶ機会は今までありませんでしたので、有意義な2日間でした。悪い指導医の例に自分もあてはまる部分があり、改善すべき点に気付くことができました。今回の講習会を生かして、微力ながら希望あふれる若手医師の成長を手助けしていきたいと思います。

(鳥取大学医学部附属病院 総合診療科 紙本美菜子)

私が所属する地域医療学講座では、学生への卒前教育が中心であり普段研修医と関わることは少ないですが、プロフェッショナリズムや振り返り、フィードバックの仕方など専門の家庭医療領域と共通する点が多く、あらためて教育手法について復習することができ有意義でした。スタッフの皆様、楽しくお話をさせていただいた先生方、ありがとうございました。

(鳥取県立中央病院 脳神経外科 細谷朋央)

科の現状として研修医と接する機会が少ないので、ローテーション研修は大変貴重な経験となつた。研修医の良い点を引き出すのがなかなか難しかったが、なるべく研修医と同等の立場での会話を心がけるべきだと思った。



(松江赤十字病院 皮膚科 和久本圭子)

頭では分かっている事項でも、実際の場面で、言葉で表現することは難しいと思います。研修医と接する機会はあまりないが、少しでも頭の隅に入れて、実践できればと思います。

(鳥取大学医学部附属病院 呼吸器内科 田中那津美)

卒研センターのみなさん、タスクの先生方はもちろんですが、Cグループの人間力あふれる各科の先生にたくさんのこと教えていただきました。このグループで良かったです。ありがとうございました。

(鳥取大学医学部附属病院 小児科 上樹仁志)

指導医講習会を受け、今までの自分の研修医との関わり方や、自分の指導医の先生のことを振り返ることができました。今までたくさんの先生方に良くして頂いたなと感謝しつつ、これからはもっと時間をかけて指導にあたろうと思いました。

(松江市立病院 泌尿器科 山口徳也)

平成22年卒の私は新研修医制度のもと、初期臨床研修を行いました。指導医講習会では、研修医終了後7年時が経つとは言え、まだまだ研修医の気持ちは分かるぞと考え、講義に臨みましたが、ロールプレイングやグループワークを通して、知らず知らずに目線や視点が研修医から離れてしまったことに気付かされました。

今回学んだことを明日からの臨床に生かしていきたいと思います。

ご参加ありがとうございました。一緒によい研修体制をつくりましょう！

## 研修医日誌

鳥取大学医学部附属病院  
研修医1年目 李 英伊



2011年に韓国で医師免許取得後、4年間の研修を修了した時は、再び研修医になるとは思ってもいなかった。ちょうど1年前、夫が「韓国の東海（ドンヘ）港から日本の境港にいくクルーズ船がある。旅行に行こう」というまでは…。

そして鳥取大学病院との縁が始まった。何かに惚れたように日本行の手続きが順調だった。

50歳を過ぎて挑戦する他国での研修医生活に不安がなかったわけではない。でも今じゃないと一生経験できないことだ、と思った。

言葉の問題もあったが、研修強度は予想を遥かに超えた。日本の医療は韓国と似ているようで、似ていない。ガイドラインも、薬品名もそうだ。また初期研修医としての達成目標は非常に高い。しっかり実力を磨いたら、どこに行っても立派な一人前の医師になるだろう。

特に救急科での2ヶ月は忘れられない。HCUの重症患者に対して基本的な処方や簡単な措置、カルテ記録をしながら朝夕のカンファレンスのための準備をするのに24時間では足りなかった。若い研修医たちがみんな上手に成し遂げているのを見て何度も挫折感を味わった。まわりに迷惑をかけるばかりだったが、大勢のベテラン先生の指導、同僚の助けで無事に救急科研修を終えた後は自信が少しあつた。

日野病院で地域医療を経験することも出来た。医師の足りない地域で働きたいとの私の希望を叶えるために、卒研の山田七子副センター長がわざわざ日野病院まで足を運んで頼んでくださったそうだ。外国人研修医へのきめ細かい支援に感謝する。やはり日本に来てよかった。

11月末で8ヶ月の短い初期研修が終わると引き続いて日野病院で働くことになる。これからは韓国から来てもらってよかったと日野町の皆さんに言われるように頑張りたい。

## 研修医今昔物語 ~私の研修医時代、そして今~

女性診療科 佐藤慎也

私は平成9年に鳥取大学を卒業して産婦人科に入局しました。なんだか随分前のことですが、昔話の語り部の様な気持ちです。平成16年からの臨床研修制度もまだ始まっていないし、CBTもなければマッチングもありません。というわけで、何の参考にもなりませんが、少しだけ思い出してみます。

今のクリニックランクシップ(昔のポリクリニック、Poliklinik【独】)で各診療科をまわり終える頃には、多くの同級生が入局先を決めていたように思います。やはり地元に帰る人もいて、夏休みに出身県の大学病院等を見学に行っていました。私はクリクラが終わった後、比較的早い時期に当時の産婦人科の教授に挨拶に伺ったと記憶しています。当然、いくつかの科で迷いましたが、最後は自分の中のリトル佐藤が教えてくれました。

医師国家試験になんとか合格してから、5月半ばにやっと大学病院の医員(研修医)として採用されました。仕事を始めてからは2年上の先輩について、初期の仕事や考え方など全てを教わりました。5学年位の上下はそのうちライバルになるのですが、その時にはすごく大人に見えました。私

見ですが、初期研修においてメンター制度はとても重要だと思っています。当時は紙カルテでしたので、病棟には紺色のバインダーを入れるカートがありました。担当患者さんのカルテの束を抱えて机に向かい、複写になった1週毎の指示書を書き、看護師さんに指示オーダーが分かる棒を挟んでいました。先輩方の指示メニューをメモして、自分なりの点滴セットを考えて作っていました。回診までに腫瘍マーカーの増減グラフを方眼紙に書き、手術報告は全て暗記して臨みました。やりたい仕事をやっているというよりは、とにかくやるべき仕事をこなすのが精一杯でした。

研修医制度が始まって14年経ち、総合的な知識を持つ医師は増えたのかもしれません。研修医の皆さんに望むことは、様々な出会いを経験し、よき仲間を作り、人間力を高めてもらうことでしょうか。



## 医局探訪

### ～第三内科～

第三内科診療科群 舟木 佳弘

皆さんこんにちは。卒後9年目、入局7年目の舟木佳弘と申します。医局では若手の部類に入りますが、新任指導医の立場で筆を執っています。

私たちの教室の歴史は当学の内科学講座の中では比較的新しく、1969年11月に原田義道先生が内科学第三講座を開講されたところから始まります。当初は内分泌疾患の診療を中心としていましたが、その後、佐々木孝夫先生、清水英治先生へと引き継がれる中で、呼吸器疾患、膠原病、アレルギー性疾患、感染症など多くの疾患の診療にあたるようになりました。2018年8月より、長年山陰の呼吸器診療を支えて来られた山崎章先生が鳥取大学医学部統合内科医学講座 分子制御内科学分野（第三内科）の第四代教授に就任され、これらの疾患における診療・教育・研究の更なる発展を目指して、医局員一同、研鑽を積んでいるところです。

医学部附属病院では、第三内科診療科群として呼吸器内科、膠原病内科の診療を担当しています。外来では、肺癌、びまん性肺疾患、喘息、COPD、アレルギー性疾患、膠原病などに専門分化した診療を行っていますが、病棟では、疾患別のグループに分けず、特に若手医師は、呼吸器疾患も膠原病も幅広く主治医として診療するような体制を組んでいます。

肺癌領域では、超音波内視鏡を含むデバイスの進歩が早期診断やロボット手術などの低侵襲手術を可能とし、進行肺癌においても、分子標的治療薬や、ノーネ

ベル生理学・医学賞で話題になった免疫チェックポイント阻害薬などが次々に開発されたことで、近年、飛躍的に予後が改善されました。びまん性肺疾患、喘息、COPD、アレルギー性疾患、膠原病領域では、抗線維化薬や生物学的製剤などの進歩により、難治性の病態に新たな治療戦略を立てることができるようになっています。このように目まぐるしく変わり、やりがいのある領域ですが、これらの新しい診断技術や治療を扱う上で、疾患の自然史や、手技による合併症、薬剤の副作用、終末期医療などへの理解を含めた内科的な総合力が不可欠ですので、日常臨床で学んでいただけるよう、科として取り組んでいます。昨年度初期臨床研修を修了され、今年度から第三内科診療科群で一緒に働いている卒後3年目の先生方の成長はめざましく、今後の活躍が期待されます。

研究面では、国内外への留学で研鑽を積まれた先生を中心に、肺癌細胞株、滑膜細胞株、気道平滑筋細胞株などを用いた基礎実験の他、人工知能を用いた画像認識システムの構築、肺癌に対する多施設共同臨床試験や膠原病診療の実態調査などを行っており、学会などで研究成果を発表しています。リサーチマインドを持って診療に当たることも重要と考えており、大学院進学の道も開かれています。

今年2月に胸部外科と合同で「胸部疾患を極める」胸部疾患ウインターセミナー」と称して、気管支鏡や肺手術のハンズオンセミナーを行いました。今後



も学生、研修医向けのハンズオンセミナーを企画する予定です。週1回のカンファレンスや月1回の胸部疾患検討会開催を含め、胸部外科と緊密な連携がとれているのも当科の大きな強みです。

時代の変遷に伴い、各医師に求められる役割も異なってきますし、新教授体制になってまだ日が浅いため、古き良き時代の伝統を残しつつも、新しく迎える先生の意見を柔軟に取り入れていきたいと思っています。また、びまん性肺疾患を極めたい（これは私です）、腫瘍学を極めたい、呼吸器内科の知識を

活かして集中治療領域に進みたい、国内外に留学したい、今はまだ何をしたいか決まっていないけどなんとなく第三内科に興味があるから入ったなど、入局の理由は様々です。呼吸器内科、膠原病内科を極めるもよし、第三内科で得た知識を活かして興味のある分野に進むもよし、いずれにしても、学生、研修医、若手医師の皆さんのかリヤ形成を手助けてできるよう日々思案しています。是非、卒後臨床研修センターやお近くの第三内科医局員に気軽にご相談ください。ともに働くことを心待ちにしています。

## 平成30年度後期行事予定

日 程	行 事
10月2日 (火)	歯科医師臨床研修マッチングリスト登録締切
10月4日 (木)	医師臨床研修マッチングリスト登録締切
10月13日 (土) ~14日 (日)	平成30年度臨床研修指導医講習会
10月18日 (木)	医師臨床研修マッチング最終公表
10月23日 (火)	歯科医師臨床研修マッチング公表
11月~12月	次年度研修編成
11月14日 (水)	卒後臨床研修委員会
11月23日 (金・祝)	日本内科学会認定救急講習会 (JMECC)
11月27日 (火)	医師研修管理委員会
1月中旬~下旬	卒後臨床研修委員会
1月30日 (水)	医師研修管理委員会
1月~3月	臨床研修合同説明会
2月15日 (金)	鳥取県臨床研修セミナー
3月中旬	卒後臨床研修委員会
3月14日 (木)	医師研修管理委員会
3月19日 (火)	歯科医師研修管理委員会
3月27日 (水)	平成30年度卒後初期臨床研修修了式

### 編集後記

専門医制度が新しくなり、研修医の先生には不安やとまどいもあるかもしれません。できるだけ早いうちから情報を集めて、安心して研修に臨めるよう応援しています。

次号は年度末に発行予定です。マッチングの最終結果や3月の臨床研修修了式を内容に盛り込む予定です。毎年恒例のベストトレジデント賞や優秀指導医賞についても掲載致します。また手にとっていただけたら幸いです。

なお、この研修センターだよりは当院で研修を修了した先生方にも配布しています。勤務先や住所が変更になった場合は、下記の連絡先までご一報ください。(西村 琳)

### 鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1

TEL: (0859) 38-7025 FAX: (0859) 38-6974

e-MAIL: [jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp](mailto:jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp)

URL: <http://sotsugo.med.tottori-u.ac.jp/>

